

Fukuoka City Hospital
F C H

Vol. **40**

2022
NewYear

謹賀新年



○今年もよろしくお祈いします

○脳神経・脳卒中センター

- ・脳神経外科・内科
- ・脳血管内治療部



地域医療支援病院
地方独立行政法人福岡市立病院機構

福岡市民病院

福岡市博多区吉塚本町 13- 1
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900
<http://www.fcho.jp/shiminhp/>

皆様、新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の動向は、未だ不透明な状態ではありますが、令和4（2022）年の幕開けを迎えました。

新年にあたり、平素より当院の運営に多大なるご指導とご協力、そしてご理解を賜っております全ての皆様に、改めまして心からの感謝の気持ちを申し上げます。

当院も通常の診療体制を可能な限り堅持しつつ、新型コロナウイルス感染症流行への対応に真摯に取り組み、あらゆる分野、お立場の皆様からのお支えのもとに、公的病院として誠実に責任を果たしてまいりました。昨年末の、いわゆる「第5波」の感染陽性者数は特に多く、また比較的若い方々の感染も多くみられ、その中でも、肥満症などの慢性疾患を持った方の「重症化」を多く経験し、私個人の専門は消化器外科で、いわゆる「急性期医療」に従事してきた者としても、改めて慢性疾患の早期治療の重要性を再認識致しているところです。今後もすべての職員一同、一丸となって更なる努力を、重ねてまいる所存ですので、本年も何卒よろしく御願い申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染が懸念される状況できわめて制約された窮屈な中、「TOKYO 2020 オリンピック」が開催され、多くの日本人選手を含む世界のアスリートの活躍が我々を活気づけてくれました。またそれに引き続く「パラリンピック」も「オリンピック」以上に私たちに勇気を与えてくれました。もちろん、これらの大会については、コロナ禍ということもあり、必ずしも国民一丸となつての開催とはいいがたいものもあり、責任ある方々のさまざまな判断が大変困難なことも察するに余りあり、いずれにしてもそれぞれのお立場において責任を全うすることの強い精神と姿勢が問われていたのだと思えてなりません。ご尽力いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

さて、そのオリンピックは、自国選手の活躍や挫折、そしてその際における姿や立ち振る舞いを通じて、自国の「文化」を知り、日々の生き方における元気や勇気を得る一方で、他国選手の活躍にも感動しつつ、自国ではあまり日常的でない他国のスポーツ文化の一面を知ることができる貴重な機会であるともいえると思います。さまざまなホストタウンでの子どもたちの参加も含めた極めて限られた交流も彼らの一生の思い出となった事でしょう。

さらに、そのようなさまざまな国家の教育や地域社会におけるスポーツの位置づけ、努力や鍛錬の重要性の評価、精神と身体との関係性の理解、そして試合結果の如何にかかわらず、勝者の態度と敗者（ルーザー）の美学、など自国の「文化」の可能性を再認識しつつ他国の人々に伝え、また他国のそれを認識しながら、相互の「国民文化」の意味を吟味して、人類の多様な可能性を学ぶ絶好の機会ととらえたいと思います。これらそれぞれの「文化」というものは悠久の時間を経て育まれたものであるでしょうし、また、今後も培われてゆくべきものでありましょう。

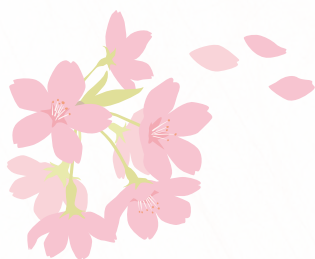
そのような「文化」という観点から、オリンピックとはやや話題は外れますが、これも昨年の米国野球大リーグの大谷翔平選手の大活躍は特に私たち日本人には、この上のない希望と勇気を与えてくれました。

そしてついに、メジャーリーグ機構は「2021年11月19日（日本時間）、アメリカン・リーグ MVP（最優秀選手）にエンゼルス・大谷翔平選手（27）が満票で選出された」と発表しました。日本人選手のMVP受賞は、2001年のイチローさん（当時マリナーズ）以来2人目の快挙であり、さらに今オフの受賞ラッシュは“10冠”を超え、またわが国の「国民栄誉賞」の打診も「まだ早いので今回は辞退」したとのことでした。

そしてその受賞の見事さと同時に、何より、彼の無駄のない美しい打撃の「かたち」はわが国の武道で引き継がれてきた「文化」を思い起こさせてくれます。更に彼のすばらしさは、高校時代に使った「目的達成シート」は有名ですが、それを引き続き実践し、単にグラウンド内でのプレイにおける勇姿にとどまらず、グラウンドのごみを拾ったり、「Next batter's box」のバットや備品を、そばにいるときには常にサークル内におさめてきちんと整理整頓したり、記者会見が終了して席を離れる際に、椅子を元の形にきちんと戻す姿も感動を与え、まさにわが国の「文化」の神髄を体現してくれているものと言っても過言ではないと思っております。わたくしが臨床研修医時代に手術室のスリッパをきちんと並べることで手術に臨む前後の姿勢の大切さや、その後に研究生生活に入った際に、先輩の先生方から、実験器具を丁寧に洗浄して元に戻すことが、実験のデータの信頼性につながる事などを厳しく教わったことを思い出します。

わたしたちの培われてきた「文化」が、新型コロナウイルス感染症によりどう変貌するのかしないのか、むしろ生活慣習や道徳も含めた「文化」が、この疾患の克服につながるのかつながらないのか、そのようなことが問われているようにも思います。世界、そしてわが国日本の明るい今後を見据えて、気持ちを新たにいたしたいと思っております。

本年も何卒よろしく御願ひ申し上げます。

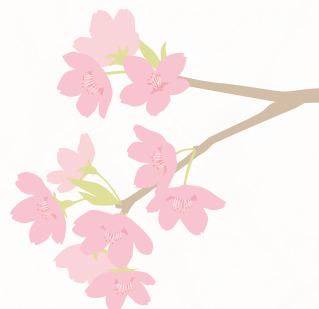


桑野博行

新しい年を迎え
皆様のご健勝と
ご多幸をお祈り
申し上げます

院長

桑野 博行



当院は、地域における中核病院として、また公的病院として、高度救急・高度専門医療の提供を責務としており、脳神経・脳卒中、消化器、食道疾患、肝胆膵、ハート、糖尿病、腎と7つのセンターを有しています。

脳神経・脳卒中センターは、平成15年4月に脳神経内科・脳神経外科が新設された当初から活動を開始しており、当院の中では最も実績の長いセンターと言えます。

脳神経内科・脳神経外科が共同して、脳血管・感染・変性・腫瘍・外傷・脊椎脊髄等、脳・脊髄・末梢神経疾患全般に対応しています。

例えば脳血管障害では、保存的治療が基本となりますが、侵襲的な治療が必要となる症例も多く存在します。

侵襲的治療が必要な場合、さらに観血的な手術と脳血管内治療のどちらが適切か判断しなければなりません。場合によっては、2つの治療を組み合わせた治療戦略をたてる必要もあります。

また、脳血管カンファレンスやテクニカルカンファレンスを適宜開催し、詳細な治療計画を立て、また術後の検証を行っています。

近年、手術件数によって医療機関の優劣を判断する傾向がありますが、患者毎に最適な治療方略を立てることが極めて重要であり、これがオーバーおよびアンダーサージェリーを防止することになると考えています。

当院は福岡地域でも数少ない脳卒中専門の集中治療室「SCU」を有しており、後遺症の予防と軽減のため早期リハビリを行っています。患者の状態が落ち着き次第、回復期リハビリテーション病院での本格的なリハビリ治療を願っていますが、医療機関同士の情報共有に「福岡市医師会方式 脳血管障害地域連携パス」を用いています。この運用実績は、急性期管理型病院の中で最多の状態が続いています。

脳血管障害のみならず、脳の疾患は急を要することが多くあり、治療介入の時期によって生命的・機能的予後は大きく左右します。

当センターは令和元年9月より、一般社団法人日本脳卒中学会から「一次脳卒中センター（PSC:Primary Stroke Center）」として認定されました。24時間365日、院内に専門医が常駐しており、「脳卒中ホットライン」を設けています。脳血管障害に限らず、いつでもお気軽にご相談ください。地域の先生方から信頼していただけるよう努力してまいります。

今後ともよろしく願っています。



脳神経・脳卒中センターホットライン
(医療従事者専用)

080-5213-0119 (24時間、専門医が対応)

●profile

診療統括部長

平川 勝之

日本脳神経外科学会指導医・専門医

日本脳卒中学会専門医

日本脊髄外科学会認定医

福岡大学医学部臨床教授

福岡地域救急業務メディカルコントロール協議会委員

JPTecインストラクター

MCLSインストラクター



脳神経内科（当初は神経内科）は平成15年に脳神経外科とともに脳神経・脳卒中センターとして発足し、18年経過しました。医師は4人体制となっており、3人が神経内科専門医、うち2人は神経内科指導医です。また3人は脳卒中専門医でもあります。当院は日本神経内科学会の教育施設に認定されています。

当科の特徴としては神経内科疾患全般に対応可能ということがあげられます。急性期疾患では脳卒中を始め、けいれん、神経感染症（脳炎、髄膜炎）、多発性硬化症、重症筋無力症などの疾患も診療しています。特に急性疾患が中心ですが、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などのいわゆる神経難病の診断や治療も行っています。

また当院では、脳神経外科、放射線科、看護部、リハビリテーション部のメンバーを交えて週3回朝のカンファレンスを行うなど、他科との連携を密に行っています。

令和2年度は当科でも新型コロナウイルスの影響を強く受けました。まず、入院患者数が前年の470人から387人へと大幅に減少しました。これは新型コロナウイルス感染患者の受け入れのため、使える病床の数が減少し、救急患者の受け入れが減少したことの影響が大きいと考えられます。新型コロナウイルス感染に合併した脳梗塞も経験しました。

令和2年度の入院患者387人の主な内訳は、虚血性脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作）201人、脳出血23人、そのほかの脳血管障害17人、てんかんなどのけいれん40人、めまい8人、髄膜炎、脳炎などの神経感染症7人、神経変性疾患18人、末梢神経疾患14人、重症筋無力症5人、多発性硬化症や脊髄炎などの脱髄疾患4人でした。

今後も神経疾患全般（特に急性期治療）に対応していきます。



●profile

脳神経内科科長

脳神経・脳卒中センター長

長野 祐久

日本神経学会指導医・専門医

日本脳卒中学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

インфекションコントロールドクター

（感染制御医）

九州大学医学部臨床教授

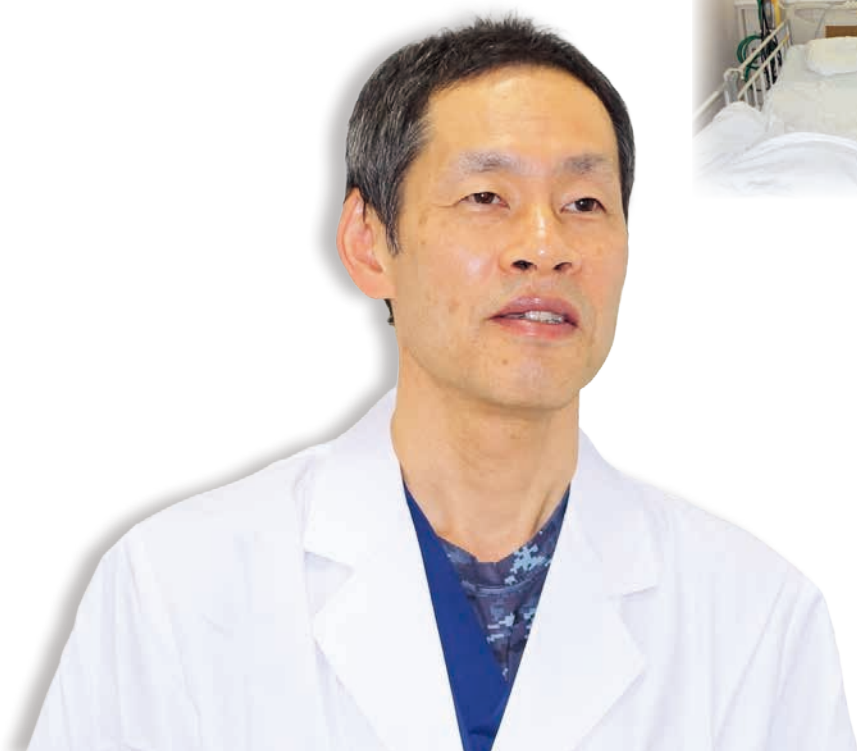
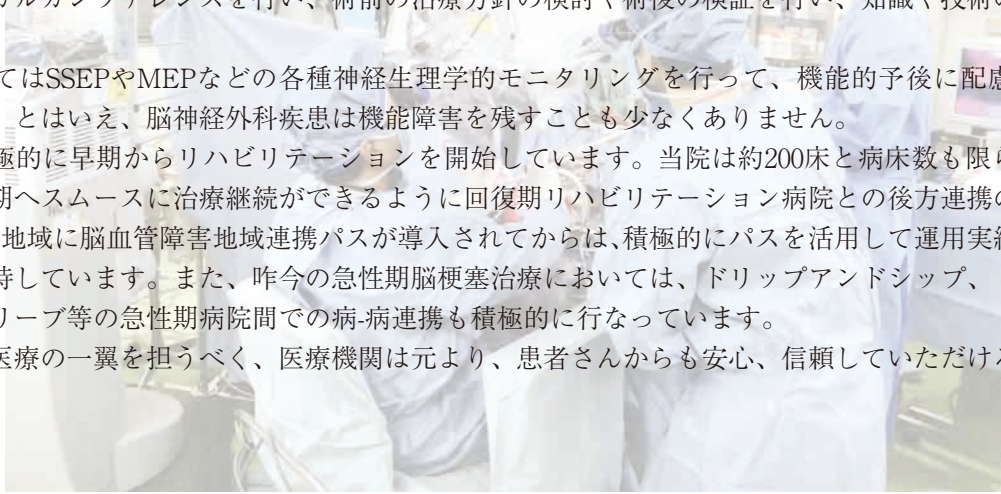


脳神経外科は平成15年4月に脳神経内科と共に脳神経・脳卒中センターとして開設され、手術の必要な「脳血管障害」をはじめ「頭部外傷」、「脳腫瘍」、「脊椎・脊髄疾患」など脳神経外科疾患全般に対応してきました。その後平成21年4月からSCU 6床の運用を開始し、平成25年から脳血管内治療を開始し、平成28年には脳血管内治療部を新設して、診療に当たっては脳神経外科・脳神経内科医師に加え放射線科医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士などとともにチーム医療を実践してきました。脳神経内科と連日行っていたモーニングカンファレンスは、令和2年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で隔日となりましたが、当科では毎週テクニカルカンファレンスを行い、術前の治療方針の検討や術後の検証を行い、知識や技術の蓄積を行っています。

手術に際してはSSEPやMEPなどの各種神経生理学的モニタリングを行って、機能的予後に配慮した手術を行っています。とはいえ、脳神経外科疾患は機能障害を残すことも少なくありません。

そのため積極的に早期からリハビリテーションを開始しています。当院は約200床と病床数も限られており、急性期から回復期へスムーズに治療継続ができるように回復期リハビリテーション病院との後方連携の構築を行ってきました。福岡地域に脳血管障害地域連携パスが導入されてからは、積極的にパスを活用して運用実績は地域でトップの状態を維持しています。また、昨今の急性期脳梗塞治療においては、ドリップアンドシップ、ドリップ・シップアンドレトリブ等の急性期病院間での病-病連携も積極的に行なっています。

今後も地域医療の一翼を担うべく、医療機関は元より、患者さんからも安心、信頼していただけるように精進してまいります。



●profile

脳神経外科科長

吉野 慎一郎

日本脳神経外科学会指導医・専門医
JPTECインストラクター・世話人



当院では平成25年から脳血管内治療を開始し、当初は1人で行なっていましたが平成28年より脳卒中センターに脳血管内治療部が設立され、指導医1人、専門医1人体制で行うようになりました。令和3年度は今後、脳血管内治療学会専門医試験受験予定の向井達也（脳神経内科、脳血栓回収療法実施医申請）、廣田篤（脳神経外科）を含めた4人体制で治療をおこなっています。また脳神経内科、脳神経外科と協力し24時間体制で救急患者の診療にあたっています。

血管内治療とはカテーテルとよばれる細い管を使い、脳動脈瘤、頸動脈狭窄、脳血管急性閉塞、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの脳や脊髄の血管疾患を、切らずに治す新しい治療法です。一般的に通常の開頭手術と比較し、開頭や切開が不要であるため、患者の負担が少なく安全性の高い治療です。そのため脳血管内治療は心臓や末梢血管の血管内治療と同様に、年々治療症例数が増加しています。しかし脳血管内治療には多くの特殊な機器と特別な技術が必要であり、どの施設やどの医師でも安全に治療ができるわけではありません。また治療に伴う危険性もあります。疾患によっては血管内治療だけではなく、開頭手術や薬物療法のほうが安全で効果があることもあり、私たちは脳神経外科、脳神経内科で十分に協議してその患者さんに最も適した治療を選択できるように心がけています。

対象となる疾患

1. 脳動脈瘤（未破裂、破裂）⇒プラチナコイルを用いた動脈瘤塞栓術
2. 頸動脈狭窄症、頭蓋内主幹動脈狭窄症⇒ステント留置術、バルーン拡張術
3. 超急性期脳梗塞⇒血栓回収機器を用いた脳血栓回収術
4. 脳動静脈奇形⇒オニキスなどの液体塞栓物質を用いた塞栓術
5. 脳腫瘍⇒術前栄養血管塞栓術
6. 硬膜動静脈瘻⇒液体塞栓物質やプラチナコイルを用いた塞栓術（経動脈的、静脈的）

脳血管内治療は、近年日進月歩に進化しています。脳血管疾患の患者さんをどの施設に紹介しようと迷われる先生方にとって、安心して治療をお任せいただけるよう、これからも努力してまいります。



●profile

脳神経血管内治療部内科科長

中垣 英明

日本神経学会指導医・専門医
日本脳卒中学会指導医・専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本内科学会総合内科専門医

●profile

脳神経血管内治療部外科科長

福島 浩

日本脳神経外科学会指導医・専門医
日本脳神経血管内治療学会指導医・専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳卒中の外科学会技術指導医



福岡市民病院 外来担当医一覧表 (受付時間: 平日 午前8時30分~午前11時)

◎:新患 ●:再来

診療科	専門分野	医師名	月	火	水	木	金
消化器外科	消化器外科, 一般外科	東 秀史	○		○		
	消化器外科, 一般外科	西田 康二郎		○		○	
消化器内科	消化器外科, 一般外科	西村 肇					○
	消化器外科, 一般外科	池田 眞一郎		○			
消化器内科	消化管一般, 病態栄養	高橋 俊介	○	○	○	○	○
	消化管一般	岩尾 梨沙	○	○	○	○	○
	消化管一般	橋本 薫和	○	○	○	○	○
	消化管一般	長田 美佳子	○	○	○	○	○
肝・胆・膵外科	肝・胆・膵外科, 胆石外来	三宮 瑞樹	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵外科, 胆石外来	武石 一樹	○	○	○	○	○
肝・胆・膵内科	肝・胆・膵	小柳 年正	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵	上田 哲弘	○	○	○	○	○
血管外科	血管外科, 腎不全外科	樋口 野白斗	○	○	○	○	○
	血管外科	中村 史	○	○	○	○	○
腎臓内科	腎臓内科一般, 血液浄化	江口 大智	○	○	○	○	○
	腎臓内科一般, 血液浄化	川久保 英介	○	○	○	○	○
糖尿病内科	糖尿病	池田 裕史	○	○	○	○	○
	糖尿病	坂井 義之	●	○	○	○	○
感染症内科	感染症	柴田 菜祐	◎	○	○	○	○
	感染症	峯原 景子	○	○	○	○	○
内科	感染症	南 順也	○	○	○	○	○
	感染症	大石 涼	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般, IVR	※曜日による交代制	○	○	○	○	○
	画像診断一般	清澤 恵理子	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般	楠 正真	○	○	○	○	○
	画像診断一般	村山 佑里子	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般	安部 時子	○	○	○	○	○
	画像診断一般	柴田 菜祐	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般	坂井 義之	○	○	○	○	○
	画像診断一般	池田 裕史	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般	樋口 野白斗	○	○	○	○	○
	画像診断一般	小柳 史	○	○	○	○	○

診療科	専門分野	医師名	月	火	水	木	金
循環器内科	循環器一般, 虚血性心臓病, 心不全	弘永 梁	●	○	○	○	○
	循環器一般	大坪 秀樹	○	○	○	○	○
循環器内科	循環器一般, 不整脈	小川 清寛	○	○	○	○	○
	循環器一般	松浦 託	○	○	○	○	○
循環器内科	循環器一般	池田 宗一郎	○	○	○	○	○
	循環器一般	渡邊 高徳	○	○	○	○	○
循環器内科	循環器一般	田中 雄大	○	○	○	○	○
	循環器一般	平川 勝之	○	○	○	○	○
循環器内科	脳血管障害, 神経外傷, 脊髄疾患, 脳腫瘍, てんかん	吉野 慎一郎	○	○	○	○	○
	脳神経外科一般, 救急	福島 浩	○	○	○	○	○
脳神経外科	脳神経外科一般	廣田 篤	○	○	○	○	○
	脳神経内科一般	長野 祐久	○	○	○	○	○
脳神経内科	脳神経内科一般	中埜 英明	○	○	○	○	○
	脳神経内科一般	柴田 憲一	○	○	○	○	○
脳神経内科	脳神経内科一般	向井 達也	○	○	○	○	○
	脳神経内科一般	齊藤 太一	○	○	○	○	○
整形外科	股関節外科, 膝関節外科	糸川 高史	○	○	○	○	○
	脊椎外科	入江 努	○	○	○	○	○
整形外科	股関節外科, 膝関節外科, 脊椎外科	田中 哲也	○	○	○	○	○
	脊椎外科, 外傷	中原 寛之	○	○	○	○	○
整形外科	整形外科一般	青野 誠	○	○	○	○	○
	整形外科一般	竹内 龍平	○	○	○	○	○
眼科	眼科一般	前田 真奈美	○	○	○	○	○
	眼科一般	中村 円佳	○	○	○	○	○
救急科	救急医学, 集中治療医学	小野 雄一	○	○	○	○	○
	救急医学, 集中治療医学	柳田 雄一郎	○	○	○	○	○

編集・発行

地方独立行政法人 福岡市立病院機構

福岡市民病院

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番1号
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900
http://www.fcho.jp/shininhp/

■受付時間: 平日8:30~11:00

■休診日: 土日祝日・年末年始 (12/29~1/3)

■急患は救急外来で24時間対応します。

地域医療連携室直通 (平日 8:30~17:00)

TEL: 092-632-3430 FAX: 092-632-3431

